策を試みる事ありといへども、意の如くなること能はず。只日曜日を利用して少く心身を安靜に保たんと欲せば、大概は各所の演說會に出席を請はれて又意を妨ぐ。事情斯の如くにして腦髓に閑暇を與へ難きを痛むが故に、人の健康に益ありといふところの事は、自ら信ずる限り、事情の許す限り、多く探つて之を身に行はんことを期す。今足下より諸專門家の說を聞くを得て思ふに、來客に接して對談するの間、稍腦の調節を補ふものあるに似たり。熱ら方今の紳士といひ、榮達家といふ者の平日を窺ふに、全き信念なくして劇務に從ふ者、或は悶々の情に耐へざるの時、多くは紅燈綠酒賤妓に戲れて自ら慰め自ら忘るゝものゝ如し。夫れ費すところ多き時は得るところ多からざるべからず、得るところ多からんとせば、勢ひ腦中の繁劇を增加せざるべからず。紅燈の下賤妓に戲れて多く費し、費すところを補はんとして又多く勞す。健康を輔くる上に於いて一の可なるを見ずして、多く得るの道、或は道心を傷け、內に省みて疚しきもの無きにあらず。又或は堂々たる士君子の名に在るものにして富豪に膝を屈して金錢の僕從となる輩あるにあらずや。

國家社會の爲に道を講ずるものと、營々利を計るものとは固より其の本領を異にす。道を講ずる者にして利を營む者の如く利を得んとするは、道心堅からずして私心に驅らるゝの過誤なり。道を講ずるもの、紅燈綠酒を斥け、不正賤劣の心を斥け、淸潔に健康を維持して、專心道を講ぜざるべけんや。彼の文字に從事し、美術に從事するものゝ如き、又此の覺悟無かるべからず。又人々多く生活に苦んで不正の心を起し、賤劣の行に出づるものゝ如し。余茲に省みる所あつて、凡て私慾に克ちて生活に苦まざるべきの所を爲せり。先頃自由英學會の演說會に出席して津田仙君の說に聞く、開拓使の初め、我が政府より米國政府に依賴して農學敎師を招きしに、米國政府能く周旋して同國に有用なるクラック氏を、現に就職しある所より拔いて送れり。クラック氏札幌農學校に敎鞭を執るの時、日曜毎に學生を招いてバイブルを說き聞かす。當時國民が基督敎に對する感念の今日の如くならず、學生よりはまづ職員の間に物議紛然と起り、評議の上遂に、農學校はクラック氏に外敎異宗を生徒に敎へんことを托せずと談ず。クラック氏從容として曰く、余は黑田

良能の人

長官より良能の人を造らんことを托せられたり、余の見を以つてするに、良き人を造らんこと基督教の右に出づるものあるべからず、故に余は生徒に基督教を説き開かす、若し不可ならんには、余は其の任に耐へざるものとして職を辭せんのみと。職員等狀を具して長官に稟告す。開拓使府に於いても亦基督教を悅ばざりしといへども、米國政府を煩はして聘したる氏の任を解くこと能はず、已を得ずして氏の説くを聽くと聽かざるとを學生の任意となせり、而して學生中の多くは基督教の事を聽くを好まず、聽く者は頗る僅少にして、其の僅少の人士は皆卒業時の成績も宜しからず、卒業後就職の遲速に於いても亦人後に落ちたるものゝ如かりしが、爾來多くの年を閱し、星霜を重ねたる今日より見るに、學科以外精神の修養を爲したる者の事業は、多く修養を爲さゞりしものに優れたるものゝ如し、博士新渡部君の如きも其の一人なりと。是を以つても證すべきにあらずや、智識以外精神修養の必要なる事を。今の學制、就中大學に於ける試驗の制度頗る愚にして、只書籍の化物は造るも、更に良能の士を造らず、智識を腦に詰め込む事には力むれども、智識を運用すべき材を造るに力めず。故に學生も一度大學の門を出でたる後、已に我が學足れりとして、尚ほ修養する事なくして、卒業試驗は我が知識を證明せずやといふものゝ如し。斯の如くにして何ぞ良能の士を得べけんや。見るべし。博士といひ、勅任教授と呼ばるゝ者、四十五十ならざるに早くも新進の士より時勢に後れたる朽學者を以て目せらるゝをや、と論じ去り論じ來り、滔々數萬言盡くる所を知らず、問題ます〳〵新になりて快辯い

多年に微す

黴菌の怪物

よ〳〵快に、言句悉く內容ありて聽く者をして心醉せしむ。南隱老師の默々、沼南先生の快辯、余は無比の對照に依つて無上の發明を得たり。抑も人は內に自ら發展するの靈能を具有すること、恰かも彼の菊が路傍の石の如くならざるものゝ如く、又他より啓導せられて發展すること、又恰かも彼の菊が路傍の石の如くならざる者の如し、菊は能く發展するも桔梗は發展せず、菊は能く發展の性を具有するも人に依つて啓導せられずんば能く今日の如くなる能はず、又能く發展するも菊は遂に桔梗たる能はざるなり。夫れ身を保つは心を全うする所以なり、心を全うするは身を保つ所以なり、心身を保○

默々と快辯

全し、然して後腦力能く發展す。心を全うするにも、身を保つにも、内に多く發展の力を膨脹せしめて、而も堅實ならしめんとするは、左樣いふ事は一人で出來るテ、の如きなり、外より盛に啓導の功を用いんとするも、島田君の千言萬語の如きなり、其の法二つの如くなれども、要するに翁をして路傍の石たらしむるものにあらず、又桔梗たらしめんとするものにあらず。彼の南隱師の如き、肉食せず、酒飲まず、花咲けども墨堤に浮かれず、紅葉色付けども王子に杖を曳かず、常に方丈に兀坐して、時に齋に招かれ、托鉢に出づるのみ、而も健康を損ずることなく、皮膚の光澤の如きは、壯者に百倍す、其の能く斯の如くなるもの、豈自ら經驗し、自ら信ずるところの攝養法無かるべけんや、其の是に就いて語らざるものは、出世間の事固より世間の事と同じからず、世間の人、出世間の人が純氣より胎を出で、能く啼き、能く笑ひ、能く父母兄弟を識り、能く立ち、能く行き、能く持し、能く負び、精氣日に足り、筋力日に強く、聰明日に開けて、天下の事能ふべからざる事無き底階段を踏めるを知らず、手を下すの初めに於いて、聖人を講求得盡せんとし、嬰兒直ちに大人の所行を爲さんとするが如くに、只其の形格を眞似ばんこと、の害あり、て益なきを知れ、ばなり。實に何事も一人で出來るテ天下何事か一人で出來ざらん。而も千萬人中一人で何事も爲し能ふものなく、眞に一人で出來得るものは稀に見る所の哲人賢者なり、其他は皆他より啓導せられざるべからず、他より啓導せられて尙ほ路傍の石の如くなるものも亦稀に見るところの痴愚漢なり、茲に於てか知る、人は決して牛の如くならざるを、人寔に犬猫牛馬ならず、有益の言を輯めて之れを讀ましめ、之を聞かしむ、豈何ぞ雛僧の鳴らす木魚の音の如くならんや、人寔に路傍の石の如くならず桔梗の如くならず、菊の能く發展する性を具有して、一人で出來る力を藏す、言語を繰返して其の力を啓導する事豈徒爾ならんや。前に大いに慚づる所、こゝに至つて大いに怡ぶところとなれり。

腦力增進論　終

自發的增進と注入的增進

明治三十七年七月十一日印刷
明治三十七年七月十五日發行

腦力增進論奥附
定價金卅五錢

著者　小畠幾次郎

發行兼印刷者　株式會社　國光社
東京市京橋區築地二丁目二十一番地
右代表者社長　橋本忠次郎

不許複製

發兌元　東京市京橋區築地二丁目廿一番地
電話特新橋八八番新橋二六九三番　株式會社　國光社

大賣捌所　東京市本郷區春木町　國光書房

關西大賣捌所　大阪市東區南本町　合資會社　積文社
大阪市東區淡路町　盛文館

國光社圖書大賣捌所

東京市　東京堂
同　北隆館
同　東海堂
同　良明堂
同　青野文魁堂
京都市　東枝律書房
同　松田庄助
同　便利堂
同　大黒屋書店
宮津町　南波庄兵衛
大阪市　吉岡平助
同　積善館
橫濱市　田沼書店
神戸市　石丸日東館
同　川瀬日進堂
長崎市　安中半三郎
新潟市　北光社
同　萬松堂支店
長岡町　目黒十郎
高田町　高橋恒
水原町　西村六平
新發田町　萬松堂支店
前橋市　煥乎堂
千葉町　多田屋支店
水戸市　川又銀藏
寧北　並木商店
宇都宮市　內田濱吉

奈良市　阪田一郎
名古屋市　川瀬代助
同　永東書店
同　星野松三郎
同　三輪文次郎
靜岡市　吉見義次
濱松町　谷島屋源三郎
三島町　村上留次郎
甲府市　大塚柳正堂
大津市　島林久四郎
岐阜市　郁文堂
同　玉成堂
長野市　西澤喜太郎
松本町　水琴堂
同　高美書店
同　松榮堂
信濃　教益株式會社
同　鶴林堂
同　明倫堂
上諏訪町　宮阪日新堂
仙臺市　藤崎書店
同　鈴木英三郎
同　木村文助
同　山本有千閣
弘前市　今泉本店
青森市　今泉支店
山形市　牧野德太郎

米澤市　市川盛文堂
秋田市　成見清兵衛
福井市　品川太右衛門
小濱町　吉岡昌太郎
富山市　中田書店
同　小林清重堂
高岡　磯野學海堂
金澤市　宇都宮源平
同　近田書店
鳥取市　旭日堂書店
松江市　川岡清助
米子町　安達共榮堂
岡山市　竹內彌三郎
同　吉田朔七
廣島市　積善館支店
尾道市　兒玉芸香堂
德島市　黑崎精二
高松市　宮脇仲次郎
松山市　土肥與平
福岡博多　積善館支店
久留米市　菊竹書店
大分町　甲斐治平
佐賀市　河內莊助
熊本市　長崎次郎
鹿兒島市　吉田幸兵衛
同　久永金光堂
札幌　富貴堂書店

國光社圖書賣捌所

東京市　目黒書店
同　服部書店
同　岸田本店
同　辻本尚古堂
同　草川旭堂
同　北原書店
同　杉村書店
同　福島書店
同　岸田支店
同　高知堂
同　錦榮堂
同　赤心社
同　金櫻堂
同　小宝榮松堂
同　至誠堂書店
同　三原堂
同　廣集堂
同　大塚太洋堂
同　金盛堂
同　新櫻堂
同　春祥堂
同　日本堂
同　勉強堂
同　田中書店
同　上田屋書店
同　松成堂
同　有斐閣
同　盛春堂
同　文園堂
同　文明堂
同　中川文林堂
同　條田屋書店
同　原田書店
同　磯部書店
同　櫻井書店
同　中野書店
同　栗原書店
同　盛文堂
同　小杉書店
同　青年堂書店
同　世界堂
同　原田書店

同　河內屋
同　新文館
同　好文館
同　東文館
同　得旋堂
同　聚星堂
同　供知堂
同　神戸書店
京都府福知山町　鹽見弘文堂
同　山中勘次郎
同松成町　和久喜久治
同舞鶴町　坂根正榮堂
丹波柏原町　中井正吉
同福知山　越山益三
大坂市　中村正兵衛
同　長江清兵衛
同　福井豐次郎
同　中村卯之助
堺市　今井清二郎
奈良市　木原文進堂
同　豐住伊兵衛
神戸市　吉岡平助支店
同兵庫　魚住悅五郎
洲本町　福浦文藏
但馬出石町　坂本寬藏
但馬豐岡町　柳田直藏
同　石田松造
橫濱市　弘集堂
同　倉田屋書店
鎌倉町　堺屋書店
大磯町　三宅藤兵衛
橫須賀町　沼諸書店
長崎市　集榮堂
越後地藏堂町　江口藤吉
越後吉田町　堀深清造
同直江津町　橋村書店
同長岡市　發張治平
高崎市　柴田道平
千葉縣佐原町　好文堂書店

水戸市　橋本庄右衛門
同　寺田支店
太田町　豐崎登之助
眞鍋町　寺田清兵衛
石岡町　高木市兵衛
土浦町　伊沼照助
水海道町　增田爲吉
下館町　須藤市左衛門
三河豐橋　富田文海堂
名古屋市　淺見文昌堂
同　山口一貫堂
同　鈴木中京堂
津市　登住謹次郎
伊勢山田町　有文堂
福島町　博向堂
平町　關內清光堂
靜岡市　新聞堂
沼津町　關契社
島田町　金關社
中泉町　弘文堂
濱松町　濱松堂
長濱町　文泉堂
大津市　文泉堂支店
彥根町　廣田七次郎
同　藤田文正堂
草津町　島田周太郎
長野市　荻原朝陽館
大垣町　岡安支店
長野市　齋藤起一
飯田町　若川半四郎
稻荷山町　汲古館
信州大町　伊藤慶次郎
高野町　高見澤和市
甲府市　溫古堂
陸前佐沼　加藤源右衛門
福島町　眞柄龍次郎
若松市　荒井陽文堂

二本松町　小松謙吉
郡山町　茂屋書店
同　成文堂
盛岡市　岩手通信社
同　佐藤庄兵衛
同　大平便益堂
一ノ關町　佐藤文港堂
敦賀町　山上宗兵衛
武生町　西村伊八
福井市　平沼潤助
同　瀧澤日進館
加賀大聖寺町　松山彌吉
松江市　大藪庄次郎
同　岡山書店
同　有田保助
濱田町　三浦梅次郎
鳥取市　橫山敬又郎
伯耆米子町　今井孫文
廣島市　友田書店
同　長谷川東西堂
尾ノ道市　北辰社
和歌山市　津田源兵衛
丸龜市　北村龜友堂
善通寺町　高井書店
[illegible]龜市　醫田書店
松山市　向井鐵次郎
高知市　澤本駒吉
德島市　井關久米吉
門司市　坂田成一
下ノ關市　上山松藏
同　白銀伊兵衛
防府町　小介起榮館
山口市　桂山陽堂
福岡市　森岡榮
久留米市　田中幸次郎
福島縣八幡町　山口新聞店
大分縣中津町　野依居三
行橋町　高橋博文堂
室蘭　岩上谷次郎
函館　小島書店
岩見澤　藤井芳盛堂
其他各書店

11/5/38

文學士 篠張符風 著

三版

讀書と修養

四六判洋裝 定價三十錢 郵税四錢

如何なる書籍を讀むべき乎。如何なる書籍を讀みて修養を資くべき乎。是れ恐らく讀書家の胸間に蟠れる先決の問題なるべし。著者符風氏奇警の見識と卓拔の議論とを以て此間の疑問を解決するや、恰も庖丁の牛を解くが如く、向ふ處整然として解けざるはなき也。此書一たび出でゝ、讀書社會の未決の大問題は釋然として氷解し、修養に對して亡羊の嘆を發するものなきに至らん。復何ぞ此の讀書に益し、修養に資くるの多大なるを疑はんや。希くは江湖の讀書家一本を購ふて、座右の參考とし、以て讀書の興味と利益とを併有せられんことを。

大本營、參謀本部、大藏省、農商務省、司法省、文部省、鐵道作業局、各府縣廳、裁判所、郡市役所、警察署、中學校、師範學校、高等女學校、小學校、各種學校、會社、銀行、本願寺、御用、其他一般、續々御注文あり

新再版

内國通運株式會社編纂

大日本里程地圖

●特皮クロース金文字入●帙入●洋裝●各定價三圓五十錢
●内國全圖定價帙入參拾錢洋裝貳拾錢

今般**再版出來す** 官衙銀行會社等の**旅費計算**には唯一の好著にして各種學校の**地理歴史研究**には空前の參考書なり 見本入用の方は郵券二錢送付あれ

發行所 東京京橋區築地二丁目 國光社
關西大賣捌所 大阪市南本町 積文社 大阪市心齋橋筋六 盛文館

村上濁浪譯述

鐵血宰相語錄

四六判洋裝定價卅錢郵税四錢

●本書は公の一世に於ける逸事を編纂したるもの或は「ヂスレリー」と握手し或は「ゴルチャコフ」と歎唔し或は「ナポレオン」を揶揄し忽ちにして熱火の修羅場となり忽ちにして樽俎の和局を現し忽にして閑靜なる家庭となる其間躍如として公の風丰面目を描き出して餘あり

弘田正郎編

豪吟集

嗚呼斷腸の詞、絕命の辭みな是れ當年の志士仁人が義を唱へ身を殺して國家の爲に濺ぎたる熱血の餘沫にあらざるなし之を秋風落日の前に吟じ之を寒月冷烟の中に誦じなば焉んぞ又慷慨壯圖の勃然として起らざるを得んや

安部正人編纂

泥舟遺稿

菊判洋裝大和綴 定價四十五錢 郵税八錢

高橋泥舟先生は幕末の名士にして、また明治昭代の逸民也。其の言行の超凡脫俗なる、誰れか嘆賞せざらむや、先生徵さるれども朝に仕へず赤貧に安んじて志を高うし、首陽の蕨、逕の菊を友として、詩文和歌に思を遣ること三十有餘年、本書は則ち其の全集にして、一面には先生の非凡の高士なるを窺ひ得べきと共に、又一面には幕末の眞事情を知るを得べし。加ふるに先生の經歷及び逸事等、編者先生に親炙して聞きしところのものを掲げたれば、先生の面目風采の躍如として紙上に顯はるゝを見るべし

宮崎滔天著

三十三年の夢

●滔天とは何人ぞ彼は哲學者にして豪傑の資を兼備せる一種異樣の人物也少壯家を辭し交游十餘年或は支那に遊び或は暹羅に航し或は南洋に渡り其胸中抱懷する哲學的理想に據て直に地上に施かんと欲し逕路崎嶇する所一二にして足らざる也嗟嗚呼天時人事共に未だ可ならず非島の獨立に參與して一蹶し風雲を南清に捲いて再蹶し半夜燈前無端失笑して目半生夢醒めて落花を懷ふと乃ち筆を肉して三十三年の經歷を叙す(定價卅三錢郵税八錢)

發兌元 東京築地 株式會社 國光社

伯爵東久世通禧君題字
高等教育會々議員湯本武比古君序
東京感化院長高瀬眞卿講述
學校家庭

修身一夕話

菊版洋装上製本 定價金十錢 郵稅六錢
並製本 定價六錢 郵稅八錢
定價金三十錢 郵稅金三錢

本書は修身倫理の大綱を說き東西古今の偉人碩儒の事蹟を言文一致體に叙述せしものにて、趣味饒多近來稀有の好書なり

伯爵 東久世通禧
從二位 鹿川
副尾 宮
島崎 內
種忠 默
臣治 藏
題著 題
辭述 辭

王學指掌

菊版總クロス製 全一冊
定價金壹圓 郵稅金拾錢

王學の吾人心身の修養に大益あることは既に天下識者の認むる所にして。今更論辯を要せじ。而るに從來この學に志すもの。三輪執齊の考定本の傳習錄に由りてこれを講究すと雖。奈何せむ該書は雜錄體にして。初學この學の統緒を繹ぬるに便ならず。本書は著者が古傳習錄及文錄等より。この學の講究に最も必要なる條項を擇び。系統的にこれを編纂し。部門を道體學術の二類に分ち。その內又各目を種別し。これが義解と評語とを施したれば。一讀の下直ちにその要領と下手の方法を理會するを得べし。且つ開卷には王子の本傳を擧げて。子の人となりとその事功の詳なるを記す實に近世王學を修むるもの〻一大好書なり。世の志士幸に一讀の榮を賜へ

内藤耻叟序文學博士栗田寬著

天朝正學

菊判洋装 定價 三十五錢
郵稅 四錢

紫洲甲秀輔編

德川の孔明

定價郵稅共 十五錢

發行所 東京築地二丁目 國光社

棚橋絢子刀自著

再版

女道普話

菊判和裝美本
定價金三十錢
郵稅金 六錢

著者棚橋絢子女史の現今女子教育界に於ける位地名望及學識の如何は世の熟知せらるゝところなり、本書は女史が女子道に對する抱懷を記されたるものにして、女學生は勿論兒女を有する父母の必ず一讀せざるべからざる良書たるはまた多言を要せざるべし。

弊社は三輪田眞佐子刀自の『女子の本分』及び『女子處世論』と共に本書を出版して女性諸子に紹介するを以て大なる光榮と信ずるものなり。

發兌元 東京築地 株式會社 國光社

女子の分本

第六十出版來

彩色美麗大紙表摺菊綴和本美服

錢六金稅郵錢五廿金價定册壹全

著自刀子佐田眞輪三　文序生先州十川細

發行所

東京橋區築地二丁目　株式會社　國光社

地番一廿目丁二地築區橋京東
番三九六二●八六電話新橋

株式會社　國光社

千古之冤魂　石田三成及其時代之形勢

水主天姥著

四六判洋裝定價卅錢郵稅四錢

勝てば即ち官軍負くれば即ち賊のみ。理非往々にして轉倒し、曲直或は顛逆す。天道漠々、世事茫々慨嘆せざるべけんや。三成六條河畔の露と消えしより三百有餘年に及ぶもその冤抂は依然として、伸雪する能はざるなり。著者乃ち、明快痛切の筆を操て當年の形勢を描出し、東西の兩雄たる家康と三成とを較論批評するや。恰も法官の刑を斷するが如く、毫も假借宥恕を須ゐず、一褒一貶、一黜一陟の間、文舞ひ句躍て千古の功罪を眼前に見るの思ひあり、關ヶ原を過ぎて、欝然たる松尾南宮の諸山を望みし者、此書を繙いて當年の事蹟を思はゝ、唾裂け、腸斷たざれば已まざるべし、蓋し近來の快著なり。

在法科大學　太田七郎著

四六判美本

和製寫眞銅版彩菊

定價拾錢

郵稅四錢

江川坦庵

著者は曾て『帝國文學』に「岳南の奇才」と歌はれし。狩水生。主人は幕末の碩儒安積艮齋をして「文武兼備勇略超倫」と嘆賞せしめし德川武士。舞臺は近世史中最も興味饒き安政嘉永の幕府時代—清澄の文警拔の識—韭山代官の傳記として讀むも可一部の幕末史として見るも可、新文明の發達史として見るも亦可なり。道義頽敗して士氣を拂へる今日世人若し武士道の理想的人物を知らんと欲せば—學生若し日本固有の模範的武士に泰西的紳士の品格を加味したる崇拜者を求めんと欲せば—婦人若し德川武士の理想的家庭を知らんと欲せば—此の書は決してパンを求むるものに小石を與ふるものにあらざる也。

發兌元　東京京橋區築地二丁目　株式會社　國光社

山崎忠和先生著

日露の英雄

四六判洋裝肖像入　定價金二十錢　郵稅金二錢

日露戰爭の豫言者として我維新前に於ける彼我英雄の心事を知らんと欲せば須く本書を讀まるべし露國の彼得大帝と我朝の德川齊昭島津齊彬とは其の識見事業の世界的なる處同一なりと論じ三雄の音容動作眼前に現はれ出で人宛も活動寫眞を見るが如し大方有爲の諸君一讀して萬古の心胸を開拓し一世の智勇を推倒する志氣を養成せられんことを望む

發行所　東京市京橋區築地二丁目　株式會社 國光社

吉丸文學士編

名家修養談叢

菊判洋裝美本全一冊　定價卅六錢郵稅六錢

○哲學者の進境及一貫の精神……文學博士 井上哲次郎
○數學的智識の必要……島田三郎
○常道論……文學博士 元良勇次郎
○日本の人種の言語……法學博士 田口卯吉
○快樂……文學博士 加藤弘之
○善良なる市民……安部磯雄
○吾人青年の三大急……農學士 志賀重昂
○苦學生に告ぐ……文學博士 村上專精
○言論文章に就て……島田三郎
○國民氣質と英吉利風……文學士 山田一郎
○青年を誡む……文學博士 加藤弘之
○學問、出身、目的、手段……島田三郎
○兩極主義……文學博士 藤井健次郎
○苦學……文學博士 根本通明
○實學……島田三郎
○無窮的進步……海老名彈正
○讀書と修養……松村介石
○進化論と現今の日本……元良勇次郎
○ベーコン、ルッソー、及びバーゼドーの教育思想……尺秀三郎
○歷史的國民と非歷史的國民……獨逸文學博士 長瀨鳳輔
○慾望……文學博士 元良勇次郎
○苦學生に望む……片山潛
○福澤諭吉翁……島田三郎

東京築地　國光社發行

小松宮彰仁親王殿下題辭　內務大臣內海男爵題辭
前內務大臣樺山伯爵題辭
賞勳局總裁大給子爵題辭
內務大臣官房編纂

明治國民龜鑑

菊判大形綴美本紙數一千餘頁
口繪功勞者肖像及石版色刷挿入
定價金貳圓郵稅十五錢

福本日南著

筑前誌

冊壹全本美入字金スロク總

定價壹圓貳拾錢小包料金拾錢

家志値軒稱常にてをを匠六起し日研し爾れ筑
殊にり兩串る物遊史叙し排拓に其氣風名年先生府神帝鎮西以要衝に當り上世風
九史なの業所兼がのてし細至說はは考遂に此地西來府探題奉行遠の府見等外と皆交に太宰府の
州學がをな該如參掌前羅りは其實九曰に州く此地都著に生れ高治國潮歌曰七曰該此の政と皆の於て
の文ら大りしく考を人せ問ざの天人の邑あ志た古りに破潰く蒼雜曰記博に政と皆の氣の識てを
人學察成先て古と指未ざ發るの荒內の天曰り高奉古立名交治國潮歌曰七曰該此の政と皆の氣の識てを
士家すす生遺今すす發るの荒內の天曰り高奉古立名交治國潮歌曰七曰該此の政と皆の氣の識てを
は可るのさに可がの無し見を破潰く志た遠の府見等外と皆交に太宰府の
必固しに本ず出く如見し政を地外りに古立名考て歌東西雜千都邑從興屋神人種記博に政と皆の氣の識てを
ず よりは在志入入讀くを外交治國潮歌曰七曰該此の政と皆の氣の識てを
一りれりを筑しみ古立名考て歌東西雜千都邑從興屋神人種記博に政と皆の氣の識てを
讀論筑具著記東て歌東西雜千都邑從興屋神人種記博に政と皆の氣の識てを
せなく前志すは西雜千都邑從興屋神人種記博に政と皆の氣の識てを
ざる志の和先に記載邑從興屋神人種記博に政と皆の氣の識てを
る政たの生徽にのは來屋神人種記博に政と皆の氣の識てを
可事在銅の歸澄至葩博和偉武人天の曰氣の於て皆交に太宰府の
らるの遺鄉しれ藻を漢學傑皇本く飛識てを綜設せら
ざ故と制の制ばを福學者士よ源入曰とせ綜設せら
る事同時の作度百發岡のの碩學箭田發而志て無せ綜設せら
業と其再興文貨しのの碩學箭田發而志て無せ綜設せら
新家に書風學の併沿譯名妄革し市風傳益價州國記國以るせ綜設せら
著敎九のし學の併沿譯名妄革し市風傳益價州國記國以るせ綜設せら
也育州價益傳風市し革妄名譯沿併の學し九敎書に家新業事る政る
菊判大和綴
定價三十錢
郵稅四錢

澁谷愛著

萬國女子風俗

四六版洋裝
定價廿五錢
郵稅四錢

▲佐倉孫三著

臺風雜記

發兌元　東京築地　株式會社　國光社

39
394

79
394

060766-000-8

79-394

脳力増進論

小畠　幾次郎／著

M37

CBM-0673

63